

生徒の振り返りをとおして、3年間の国語の授業を省察する

—何を身に付けさせることができ、何を身に付けさせることができなかったのか?—

国語科 渡辺 治

1 はじめに

中学一年生の授業開きにおいては「なぜ学校で国語を学ぶのか」と問いかけ、そのことについて考える時間を設けるようにしている。また、中学三年生の最後の考查においては、作文（短作文）のテーマとして「国語の授業を通してどのような力を身につけたか」という問いを設定するようにしている。国語科に限らず、その教科の本質的な意味について考察し、自分なりの考えをもつことは必要なことだと考える。また、自分の学びを振り返りつつ、その調整を図っていくこと、すなわち学びのメタ認知については、これまで以上にその重要さが指摘されるようになってきた。

さて、平成30年度から令和2年度にかけての3年間、筆者は玉龍中学校13期生の学級担任と同時に教科担当を務めてきた。一部を少人数指導として二人の教員で担当することはあったが、第1学年で週5時間（標準4時間）、第2学年で週4時間（標準4時間）、第3学年で週4.5時間（標準3時間）と標準を大きく上回る授業時数が設定されるなか、その授業のほとんどを担当してきた。同じ生徒とこれほど多くの時間、国語の授業に取り組んだのは教師になって初めての経験である。

その13期生に対してもこれまでと同じように、学年末考查の短作文として自分自身の国語の学びについての振り返りを行わせた。視点を変えれば、それは私の教師としての国語の授業の在り方の振り返りでもある。生徒たちにどのような力を身に付けさせることができたのか（どのような力が身に付いたと実感させることができたのか）、反対に何を身に付けさせることができなかったのか、私自身の授業の在り方を省察するための絶好の機会でもある。自分自身の3年間の国語の授業を振り返り、今後の授業の在り方に生かしていきたい。

ただし、考查中の一題として出題したものであり、それが評価につながるものである以上、そこには教師に対する何らかの心理が働いていること、あるいは記述にあたっての時間的な制限があったことは十分に考慮しておきたい。

以下、学年末考查における生徒の解答をすべて列挙したうえで、その考察を加えることにする。枚数制限なしの電子版紀要であることに乗じて、自分自身の記録も兼ねて受験生(117名)全ての文章を列挙することをご容赦願いたい。

2 生徒の振り返りの具体について

- (1) 方法 学年末考查における短作文の問題（10点分）として出題
- (2) 実施日 令和3年2月18日(木)
- (3) 対象 中学校3年生119名 うち受験者117名
- (4) 内容 考查における出題は以下のとおり

大問5 あなたが、中学校三年間の国語の授業で学んだこと、もしくは身に付けたことを、あとの(1)・(2)の条件に従って書きなさい。

【条件】

- (1) 題名や名前は書かずに、六行以上、八行以下で書くこと。
- (2) 原稿用紙の使い方に従い、誤字や脱字、文の乱れ等がないように書くこと。

ア 一行は20字である。よって120字～160字での解答となる。

イ 出題内容については、約1週間前に全生徒に告知し、解答内容を事前に考えたおこように指示をした。

(5) 生徒の記述の実際

- ア 明らかな誤字・脱字を除き、117名の生徒の記述をそのまま転記する。
 イ 生徒の記述の右欄は、筆者が主に記述されていると判断した内容に○印を付けた。
 内容によっては複数の○印がつく場合がある。

・ 話聞 = 話すこと・聞くこと ・ 書く = 書くこと ・ 読む = 読むこと
 ・ 古典 = 古典(古文・漢文) ・ 文法 = 文法 ・ 漢語 = 漢字・語彙等
 ・ 見方 = ものの見方・考え方

- ウ 生徒記述中の「/」は改行を示している。

No.	生徒記述(順不同)	話聞	書く	読む	古典	文法	漢語	見方
1	僕は三年間の授業の中で、自分の知識や経験を上手に文章にまとめることができるようになりました。/始めは何をどのようにいつだす(筆者注「書く」の意か?)のかというのが分からず、文章を書くことがあまり好きではありませんでした。しかし、多くの素晴らしい文学作品に出会うことにより、上手に自分の考えを表現できるようになりました。		○					
2	僕は、この三年間の国語を通し、人としてどう生きるのか学びました。説明文では、これからの社会で必要なことや、その身につけ方を学び、物語では、人との関わり方を学びました。古文では、先人たちが(が)つくりあげた文化や、変わらない自然の美しさを学びました。将来の選択が、増(筆者注：時間切れのためか文章途中で途切れる。)			○	○			○
3	ぼくは中学校三年間の国語で学ぶとはどういうものなのかについて学びました。論語の「故きを温めて新しきを知る」から新しいことを知るには先人のたどった道を学ぶ必要があるのだと分かりました。また、作者の気持ちであったり、情景だったりとした深いところまで読み取る力も身につけることができました。			○	○			
4	私は、「書くことのレッスン」の授業を受け、一年生のときよりも自分の考えを表すことや、文章をかくことが上達したとを感じる。/また、渡辺先生が、文章の読み方などを授業中に教えてくださったことから、物語のおもしろさが分かるようになり、本をたくさん読むようになった。		○	○				
5	ぼくは、中学校三年間の国語で本の楽しさを学んだ。特に、先生の物語の授業が最も影響力があったと思う。先生の丁寧な教え方やプリント等を使った友達との話し合いの活動、納得がいく先生の教え方、それらが毎日の国語の授業の楽しみだった。今では、いろんな本を読み、どういふことを伝えたいのか自分で考えるのがとても楽しくなっている。			○				
6	私は中学校三年間の国語で、さまざまな文章の読み方を学びました。/説明的な文章では最初最後に筆者の主張がきたり、「しかし」「つまり」などの文の展開のされ方などを学びました。/物語の登場人物の行動や言葉に心境がよく表れていたり、風景のえがかれかたでも心境がわかるということを知りました。			○				
7	三年間の国語の授業で、一番心に残っている分野は古典です。特に論語では、二千五百年もの昔の人が記したものが、現代にも多くの部分で通用していることに驚きました。この授業を通して、新しいものばかりにとらわれず、古いものにも目を向けることで得られるものがあることを学びました。				○			
8	僕は、中学校三年間の国語の授業で文章をまとめる力が身につきました。/天声人語の要約や、二百字帳に文を書いたりして、自分の文章を書く力が上がっていると感じました。そして、短い文を書くことが得意になったので、作文も簡単に書けるようになりました。僕は、書くことのレッスンで文を書くことの楽しさを学びました。		○					
9	僕は、国語の授業を受けることによって、物語を読んだときに主人公や脇役などが、今どのように考えているのだろうかというのを想像しながら、物語の内容を理解しやすくするという方法を、身につけることができました。今までただおもしろいから読んでいたが、今では、この人が自分と似ているなどを考えながら読むことができます。			○				
10	僕は友達との意見交換などの授業を通して人間の感情の多様さを学んだ。同じ文章を読んでも同じ物を見ても思うことはひとりひとり違って、友達と意見を交わすことの楽しさも学べた。同じことを考えている人はほとんどいることがなく、まさに「十人十色」とあるということを実感させられた。							○
11	僕が中学校の国語で学んだことは、「相手の気持ちを読み取る」ことです。物語文でも説明文でも、必ずどこかに登場人物の思いや筆者の意図がかくされていました。時には難しく表現されていることもありましたが、読み解くことにより、気持ちや意図を読み取る力が大きくなったと思います。生涯使っていく大切な力なので、もっと力をつけたいです。			○				
12	僕が中学校三年間で身につけたことは、説明文や論説文などの読解力です。初めは文を理解したつもりでも正しい答えが書いていなかったり、解説を読んでも分からなかったりしていました。しかし、国語の授業を通して考える力が深まり、次第に正解の数が増えてきました。今では説明文を楽しみながら読めるようになりました。			○				
13	私は、三年間の国語の授業で、しっかりした読書が出来るようになりました。/これまででは、サーッと読んで「おもしろかった」で終わっていたところを、時間をかけて、疑問に思ったことや筆者の考えなどを考えながら読むようになり、一気に世界が広がりました。これからは、読書感想文などのアウトプットする力を伸ばしていきたいです。			○				
14	私は三年間を通して、読解力と文の構成力を身につけることができたと感じる。中学校に入学し、本を一週間で平均五冊読むようになったことから「読む楽しさ」が分かり、物語の読解力につながったと思う。また、書くことのレッスンを通して、論理的に文章を組み立てる力が身についたと思う。三年間の学びを高校でさらに深めていきたい。		○	○				

15	私は、中学校三年間の国語の授業の古典において、昔の人の考えなどを学ぶことを身につけることができました。／小学校でも古典はやっていましたが、あまり深くはやらなかったので意味が分からないところも多くありました。中学生になって学ぶことで現代にも通ずる考えや教えがあるのだと知ることができました。				○				
16	僕が国語の授業で身につけたと特に感じるのは文法と漢字だ。／理由としては文法と漢字は生活面で使うことが多いため、身につけていることが分かりやすいからだ。今まで平仮名で書いていたところも漢字に変わっているのが多く、伝えたいことが表現しやすくなっていると感じたため、文法と漢字が身につけていると思う。						○	○	
17	中学校の国語教科書には多くの話のついでにありますが、その話をただ読むだけではなく話を書いた人はなにをその話で伝えたいのか読みとるといふこれからの情報化の時代で生きるスキルを学んだと思う。これから、間違った情報などがあふれている中で、どれだけ正しい情報を見つけられるかがとても大事だということを授業を通して学んだ。				○				
18	私は、この三年間で作文を書く力を身につけることができました。／なぜなら、週に一度書くことのレッスンがあったからです。最初は二百字でも授業一回の時間を使っていましたが、今では四百字をいろいろな構成で書いたり、言いかえをしたりということを授業一回分で書くことができるようになりました。				○				
19	私が三年間国語の授業で学んだことは、読書の楽しみです。前から教科書にのっている物語などおもしろいものも多く、例えば「走れメロス」です。私でも知っているぐらいの有名な作者が書いていて、これまたおもしろいものだから違う本も読んでみたいと思った。少しですが、前より小説をよく読んでる気がします。					○			
20	私は、登場人物の心情を読み取っていくのが苦手だった。しかし、この3年間の国語の授業を通して、人物のようすを捉えるのが、楽しいと思えるようになった。初めて読んだときの印象と、学んでから読んだ印象が、がらりと変わっていて、とてもおもしろかった。今後も、情景や他の人物から読み取ることを楽しみたい。					○			
21	私は三年間の授業の中で、自分の思いや考えを他の人と共有し、新しい考えを生み出すことを身につけました。初発の感想などで交流し、話し合う経験はこれからも続けていきたいです。また、文章を書くことを通してより論文や物語の著者の思惑を感じられようになれたと思います。					○			○
22	私が中学校三年間の国語の授業で身につけたと思うことは、主に二つあります。／まず、一つ目は、発信力です。グループ活動などを通して、自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えることができるようになりました。二つ目は、理解力です。文章読解を通して、筆者の伝えたいことや話の根幹を文から読み取ることができるようになりました。					○			
23	私は、国語の授業を通して、さまざまな文学や言葉に出会い、語力をつけたり、筆者の伝えたいメッセージをより感じられるようになりました。以前は、四字熟語や、ことわざなど知らないことだらけで、筆者の思いもよく分からず、戸惑うことがいっぱいあったのですが、理解して成長したと思います。また、高校でもそれらを深めていきたいです。					○			○
24	私は、中学校三年間の国語の授業で、他の人の多種多様な意見を認める力を身につけました。感想や短作文の読み合いをする時間が授業中にあり、最初は自分の意見に何か言われたらどうすれば良いのかと戸惑っていましたが、回数を重ねていくうちに、相手の意見を受け止めた上で、自分の意見を更に深めて伝えることができるようになっていきました。								○
25	私は、この3年間の授業で様々な種類の本を読むことの大切さを学んだ。／授業で新書を取り扱ったり、古典について学んだりしたことにより、自分から積極的に様々な種類の本を読み、新しい知識を得たり、今まで知らなかった本のおもしろさに気づけたりした。様々な種類の本を読むことと自分の世界を広げるために大切だと学んだ。					○			
26	私は中学校三年間の国語の学習を通して人間の多様性について学びを深めることができました。例えば、同じ文章を読んでもクラスの人の意見を聞くと自分とは違った視点で見ていることが多かった。そこからより自分の考えを深めることができました。これをいかして、高校でも多数の意見を聞き、考えることを大切にしていきたい。								○
27	科学技術が急速に発達しているこの社会。これからのいろんなことがコンピューター化していく。そんな中、人にできて機械にないもの「感情」が大切になってくると思う。だから、感情を伝えるのに一番使う言語をより学ぼうとしてきた。おかげで、以前よりも感情を伝える技術がたくさん身につく、さらに多くの物語に触れ、感情についても学べた。					○			
28	中学校三年間の国語の授業で正しい日本語の使い方を学ぶことができました。文法学習を通して、話し言葉と書き言葉の違いや相手によって使う言葉をどのように変えればよいかを知った。これからの生活にもときと場によって日本語をどのように使うべきか判断する力を生かしたいと思う。							○	
29	私は、三年間の国語の授業の中でも特に物語文においての間接的な表現の意味や意図の読み取り方について興味深く学ぶことができました。同じ文章一つに対しても個人個人で考えが分かれ、新しい発見が多くありました。そして、こうして考えが分かれば、解釈の幅がどんどん広がっていくことこそが物語文の魅力だということも考えました。					○			
30	私が国語の授業から学んだことは、物事をたくさんの観点から見たり考えたりすることが大切だ、ということです。私は今まで、本を読むときは自分の考えだけで見ていました。しかし、国語の授業で様々な視点から物事を考えると、自分だけでは気づけなかったことがたくさんあることを学びました。これからは様々な視点から物事を考えたいです。								○
31	私は、この三年間で学んだことの中で日本語の文法について詳しく学ぶことができたと思う。／これまでは、文法について意識をもったことはなかった。しかし、「ら抜き言葉」などの文法上では誤法の言葉を学べた。正しい日本語を使うことができるようにこの三年間での学びを活かしたいと思う。							○	
32	私は中学校三年間の授業を通して、国語の楽しさを学んだ。小学校のときよりも、授業の中でより深い部分まで触れるようになって、考えの幅が広がり、ものの方見方やとらえ方が変化したように感じる。また、自分の考えとそれとは異なる考えを照らし合わせることで様々な視点から物事を見て、考えて、表現する力を身につけることができた。								○

33	文法を学んだことで、言葉に対する意識がかわった。特に、ら抜き言葉などの誤っている文法については、間違っているとは知っていても、どこがどう間違っているのか分からないため、使い続けてきたが、理解すると使う機会は減った。相手に思いを伝えるためには言葉が大事で、基礎を学ぶことで、より考えて言葉をはつるようになった。								○			
34	私が中学校三年間の国語で学んだことは、物語や小説だけでなく、論説文や随筆などの読み方です。論説文は、筆者が伝えたいことは何かを読みとるのが難しいです。しかしこの三年間で、途中の文の接続詞や助詞の使い方によって筆者の考えが書かれていることもあるのだと学びました。これからは、より正確に筆者の考えを読みとれるようにしたい。							○				
35	私は中学校三年間の国語の授業で学んだことは、文章の描写の細かい読み取りです。文章中の情景や登場人物のさりげないしぐさに人物の心情や社会の様子、筆者が本当に伝えたいことなどが書かれています。私は渡辺先生の授業を受けてこのおもしろさに気付くことができました。この学びに気付くことができて良かったです。							○				
36	私は、中学校三年間の国語の授業で、相手の立場に立って物事を考える力を身に付けることができた。私は普段から人間関係に不安があるが、例えば中一の内容の「カレーライス」のように、険悪な関係に相手となったときの相手の心情などを深く考えることができた。これからも人と関わることは多いが、国語で習ったこの経験を生かしていきたい。							○				○
37	私は中学校三年間の国語の授業の中で、今までに読んだことのないような内容の読み物に出会ったり、新しく知る言葉を覚えたりすることで、読書の幅や、自分の使える言葉も広げることができた。また、漢文や古典など、難しい文章を読めるようにもなった。国語は自分の生活の幅を広げてくれる大切な教科だということを知ることができた。								○			
38	私は国語の授業を通して、作文などの文章の書き方を学ぶことができた。最初のうちは文法がおかしくなってしまうたり、間違った日本語を使ってしまうたり、文が分かりにくくなっていることが多かったが、授業を通して文章での伝え方が前よりもよくなったと思う。これからも相手に伝わる文章の書き方について学んでいきたい。							○				
39	僕はこの三年間の国語で、いろいろな視点から物事を読み取る力を身に付けることが出来たと思う。／理由は、グループの話し合い活動などを通して自分では気付けない視点や物事を友達と共有することができ、自分が物語を読むときに一方向で読み取るのではなく、さまざまな視点から読み取ることが出来たからだ。								○			○
40	僕が中学校三年間の国語の授業で学んだこと、身につけたことは、二つあります。一つ目は、漢文の読み方です。どう読むのか分からなかった漢文も今では、ある程度読むことができるようになりました。二つ目は、筆者の主張をもとに、自分の意見を書くことです。筆者の主張を理解して自分の意見に取り入れることができるようになりました。							○		○		
41	ぼくが国語の授業で一番身につけたのは読解力だと思う。／なぜなら、学年が上がるにつれて、新書や小説などの、あまり図や絵がない本を読むようになったからである。また、それらの本を読むことで新たな発見がたくさんあり、知識の蓄積が加速した。そういった意味でも、国語で一番身につけたのは読解力だと思う。								○			
42	私が中学校三年間の国語の授業で身に付けたことは、「書く力」である。書くことのレッスンを含め、多くの文章を書いたことで、様々な表現の工夫、言葉の使い方ができるようになった。また、多くの文章を書いたことで、今までよりも速く文章を書くことができるようになった。高校でもさらに力を伸ばしていきたいと思う。								○			
43	国語の授業の中で、特に文法事項が自分の力になった。日常生活では使われているが、文法上では正しくない言葉などは、作文では使わないようにした。そうすることで、自分の意見に説得力を持たせることができ、相手にも伝わりやすくなった。高校では、古文の文法についても学んでみたいと思った。									○		
44	物語文の登場人物の心情を読み取りやすくなったり、文を読むことに抵抗が少なくなったりした。読める漢字がふえて、意味のわからない言葉などが減った。文の使い方を（筆者注：時間切れのためか文章途中で途切れる。）								○			○
45	僕が三年間の国語の授業で身に付けたことは、文を二百字から四百字でまとめる能力です。小学校の時は、字数制限の中で文を書くのが苦手でした。早く書くのは好きでしたが、あまり字数に目を向けることが無く、多い時もあれば少ない時もあるという感じでした。それにより、文章のまとめ方もより上手になったなと思います。								○			
46	私は、中学校三年間で身につけたことが特に二つあります。一つ目は、語彙力です。毎日の漢字テストや読書の時間から分からない単語があれば、すぐに調べました。それをアウトプットすることで身につけることができました。二つ目は、文法力です。小学校よりも、より難しい文法を中学では学び、難しい文の構造でも理解できるようになりました。									○	○	
47	中学校三年間の国語の授業で学んだことは、これから生活していくうえで様々な活用できることがあった。特に、書くことのレッスンでは、語い力が高まったとともに書く速度や要約する力、自分で文章を作り出す力が高まった。多くの教科書の文学作品を通して、本を読むことをより好きになれたと思う。これからも、学んだことを活用していきたい。							○	○			
48	僕は三年間の国語の授業を通して、様々なことを学び、ほっとしたことがある。文法だ。それまでの僕は作文が少し苦手な文を上手に書くことができなかった。しかし、文法を習ったことで、今まで気にもしていなかった「ら抜き言葉」や言葉のルールを知り、作文を書くのが上達した。また、漢文が好きになり、漢文を読み解くことが上手になった。									○	○	
49	僕は、三年間の国語の授業を通して、国語はセンスだけの学問ではないことを学びました。／模試の問題や、授業の中で示された課題の答えを、一、二年の頃の僕は直感のみで探していましたが、この三年間の中で、常に正しい解答は、文中にある根拠に裏打ちされていることを、特に昇龍塾から学びました。								○			
50	私がこの三年間でより多く学んだのは物語文についてです。登場人物の心情の読みとり方、周りのクラスメイト達の物の考え方、おもむきなどの感性、そして物語の深みのあるおもしろさなどです。先生の授業で見る物語文は自分で見た物語文とまったく違う奥ゆきがあり、とても参こうになりました。高校ではもっと深い読みとりをしたいです。								○			

51	僕が三年間で身につけたことは、二〇〇字で自分の感想や新聞の要約をすることです。一年生の頃はどのような視点で物語を読むか迷っていましたが、二〇〇字でまとめる授業を通し、主人公の心情の変化に注目することができるようになりました。また新聞の記事を読み要約する作業ではどのような書き方が相手を引きつけるのかもわかりました。		○	○					
52	私は、この三年間で身につけたことは、文法力や様々な観点から文章を読んでいく姿勢です。／入学当初は、国語ができなくて悩んでいたときがありましたが、書くことのレッスンや文法の学習、友達との意見交流などを通してより深く文を読み取ることができるようになりました。			○		○			
53	僕は、この三年間の国語で古文を学びました。小説や説明文に比べて小学校との違いもはっきりしていて、見た目も難しそうだったけど、覚えるのは口語訳と文法だけで、現代仮名遣いに直すことや古文を読むのは面白かったです。高校でも古文はたくさん読むと思うので今のうちにもっと慣れておきたいです。					○			
54	僕は三年間の国語の授業を通して、登場人物の心情を読みとる力が身についたと思います。物語文を読むときに「今こんな気持ちだろうな。」と想像することが多いです。登場人物の心情が分かれば、その物語の内容の理解をスムーズにできます。このような力を身につけさせてくれた先生に感謝したいです。			○					
55	僕は、中学校三年間の国語の授業で、文章をはやく読むということを身に付けました。小学生までは、本を読むのがあまり好きではなかったのですが、国語の授業でたくさん物語を読んでいくうちに、本や教科書の中にある物語を読むのが好きになりました。高校でももっと難しい文章をもっとはやく読めるように頑張りたいです。			○					
56	僕は国語の授業を通して学んだことを聞かれて具体的に答えることはあまりできない。しかし、国語の授業または先生の影響で身に付いた考え方が一つある。それは、ものごとを観るときに、別の視点からみるということだ。先生がよくされていたので、自然と身につけることができたのだと思う。								○
57	僕は中学校三年間の国語の授業で、新たな文章を読む観点というのを学んだ。普段自分で文章を読むとき、自分の観点だけで読むが授業を通して先生や他の生徒などの、別の観点を知り、とても面白かった。／これからも、文章を様々な観点から読み、楽しんでいきたい。			○					
58	僕は中学校三年間の国語の授業で言葉の大切さを身につけた。「ら抜き言葉」など一つの言葉を抜かすと意味が変わってしまうということなど、普段の生活では感じることでできない大切なことを学んだ。また、作者の気持ちを考えながら文章を読むことを身につけた。今後の生活にいかせるようなことを多く学ぶことができた。			○			○		
59	私は三年間の国語の授業で文章の読み解き方、読む楽しさを学んだ。一つの文章に時間をかけて人物の心情、筆者の思いを皆で考え答えを導き出すのがとても興味深く面白かった。また、私は説明文の苦手意識があったが教わった読み解くコツのおかげで最近はいよいよ問題に答えることができています。三年間学んだことをいかして高校でも頑張りたい。			○					
60	私が中学校三年間の国語で身につけたことは、他の人の考えや意見に対してさらに自分で考えようとする姿勢です。物語文を読むときには、多くの考え方や意見が出てきます。そのときに納得することもあれば、批判的な思いを抱くこともあります。その後、そのまま終わることなく、再び文章を読んで考えるようになりました。			○					○
61	私は、書くことのレッスンで、想像力や表現力が身についた。最初は新聞の記事を読んだり、要約したりしてどの部分が大切か自分で考えて判断できるようになった。最近では、テーマにそって二百字でまとめることで想像力が身につく、グループ内で読みあうことでこんな表現のし方もあるという新しい発見もあった。			○					
62	私が中学校三年間の国語の授業で身につけたと思うのは、文章を作り発表する力です。三年間、学級弁論大会や校内弁論大会を通して人の意見を聞いたり、自分の意見を発表することで、考えを深めることができました。文章を作り発表する力は、どんな仕事にも必要なことだと思うので、もっと力をつけていきたいです。			○					
63	私が、三年間の国語の授業で身につけたことは、「書くこと」だ。／新聞の記事を二百字でまとめたりする作業は、伝えたいこと・大事なことを自分でまとめ、要約することで簡単な文にし、読みやすくすることができた。二百字で伝えられることは少ないが、その中でも伝えられる（筆者注：「伝えたい」もしくは「伝えるべき」の誤記か）ことを伝えることができると分かった。			○					
64	私は中学校三年間の国語の授業を通して、文章力や読解力の大切さを学びました。現代の社会や学校の試験などでも自分の気持ちを自分の言葉で表現するのが増えています。また今、学校の授業で実際にプレゼンテーションを作っていて、どの教科も基本となるのは国語だと感じました。だから、これからも本を読むなどして国語力をつけていきたいです。			○	○				
65	私が中学校三年間の国語の授業で身につけたことは、人とのコミュニケーション能力です。／例えば、「走れメロス」では友情について学びました。授業の始めには漢字テストをしました。それらは人と関わるうえでとても重要なことです。国語の授業で身につけたコミュニケーション能力を大切にしていきたいです。								○
66	私はこの三年間で一番読解力が身についたと思います。小学校の時は何を言っているのかが分からないが多かったのですが、中学生になって文の読み取り方をくわしく習うと、道すじを立てて、文を読めるようになってきました。これからは習ったことを生かして生活していきたいです。			○					
67	私は中学校三年間を通して、様々な視点を学んだ。例えば何か問題があった時。三年前までなら、一つの自分の考えが全てだと考えていた。しかし、今なら一度客観的に、否定的に見るなど、様々な視点を使うことができる。授業を通し、様々な話や意見を知ったことで私の中に多くの視点を身につけられたのだ。高校でもこれを生かしていきたい。								○
68	私は中学三年間の国語の授業で、思考力と表現力を身に付けた。小学生のときは違う、一つの文章を深く読み込む授業のおかげだと思う。友達の見解と自分の意見の相違点を見つけ、さらに考えを深めたり、二百字帳などに自分の考えをまとめて、伝わりやすい文章を書いたりすることができた。			○					

69	私が一番身につけたものは読解力です。まだ、全く読みとれないときもありますが、入学したときと比べると読み取れる速さが速くなりました。例えば、主人公の気持ちから筆者の伝えたいことを見つけたり、主人公と他の人との関係性をつかんだりすることができるようになりました。									○		
70	私が中学校三年間の国語で学んだことは文法です。文法を学び、文章のとらえ方や文章構成を上手くできるようになりました。／例えば、可能動詞「れる・られる」の関係を学んだことにより、手紙の書き方が変わりました。正しい文法で、正しく伝えることができるようになりうれしいし、これからたくさんさんの事を学んでいきたいです。										○	
71	私が中学校三年間の国語の授業で身に付いたと思うことは長文の読解力である。さまざまな視点から書かれた文章を読み、その文章を読む前と後での自分の考えの変化を実感することができた。また、内容や構成、筆者の意見などを整理し、クラスの人と考えを共有する場も多くあったので更に理解を深めることができたと思う。									○		
72	私が中学校三年間の国語の授業で身につけたことは、文章を書く力です。私は自分の考えや思い、意見を書くことが苦手でしたが、三年間の国語の授業で文章を書くときの効果的な書き方や文法を学んだり、何度も書く練習を繰り返したりして、自分の思いや意見を自分の思うように書いて伝えることができるようになりました。									○		
73	私が中学校三年間の学んだこと、身につけたことは、説明文や物語をくわしく読む力です。説明文の授業では、筆者の考えや意見を自分の考えと比較する練習ができました。だから新書などの難しい文章も進んで読むと思うようになりました。物語の授業では、登場人物の心情や情景などを読みとることによって作品の面白みが理解できるようになりました。									○		
74	私が学んだことは、登場人物の心情を深く読み解くことです。今までは、文章に書かれていることだけしか心情を読みとることしかできませんでした。しかし、三年間学んできて登場人物の心情が情景に表れていることを知りました。このことで、物語を深く読み解く力を身につけることができました。									○		
75	私が中学校三年間の国語の授業で身に付けたことは、文章を書く力です。二百字帳を使って様々なテーマで文章を書く授業を通して、自分が伝えたいことを分かりやすくまとめる力が身に付いたと思います。またグループで互いに書いた文章を見せ合うことで、自分が知らなかった知識や言葉も学ぶことができました。									○		
76	私が三年間の国語の授業で学びこれからも大切にしていきたいと思うことは「多様なものの見方、とらえ方がある」ということだ。グループや全体での話し合いを通してそれを実感し学んだ。もの見方、とらえ方に間違いはないので、他人の意見を素直に聞き入れよりいものを見つけていきたいと思う。											○
77	私が中学校三年間の国語の授業で身に付けたのは、「考えを文章にする力」だ。一年生の時は、自分の考えはあっても、文章にするのに時間がかかっていた。それが今では自分の考えを自分の言葉でスムーズに表現できるようになった。この力は、大人になっても必要だと思うので、これからさらに磨きをかけていきたい。									○		
78	ぼくにはこの三年間で身に付けたことがたくさんありました。中でも、一番は、筆者の本当に伝えたいことをとらえてまとめる力だと思います。一・二年生の頃から天声人語などを使い二百字にまとめる力を身に付けることができるようになりました。その力は高校生になっても必要になってくる力だと思うのでもっとみがきをかけていきたいです。									○		
79	私が中学校三年間の国語の授業で学んだこと、身に付けたことは、二つあります。／一つ目は、内容を深くしっかりと読みとることができるようになったことです。昔はあまり読みとれていなかったけど今はできています。／二つ目は、他にも違う種類の本がありそれにも挑戦してみようと思え広がった事です。									○		
80	私は、中学校三年間の国語の授業を通して文のすばらしさを学びました。幼いころから本を読むのが好きで、あまり筆者の主張がわからず、ただ読んでいただけでした。しかしこの三年間で、文に隠された筆者の主張やつたえたいことが分かる技術を得ることができさらに分かるようになりました。									○		
81	僕が三年間の国語の授業で身につけた力は、文を書くことです。この力は、金曜日に行われる二百字作文の授業でつきました。一年前までは、書くことにとっても抵抗を感じており、作文の時間が苦痛でした。しかし、今では二百字がとて短く感じるようになりました。これから、小論文など自分の考えを表現する機会が多くなるので、それに生かしたいです。									○		
82	僕は中学校三年間の国語で身につけたことは二つあります。一つ目は読解力です。中学校では小学校の何倍も量が多いものやむずかしいものを読みました。だから読解力がついたと思います。二つ目は文法です。今まで何気に使っていた言葉もしっかりと文法上でどんな役割をしていたかなど学べてとてもよかったです。高校でもたくさん学びたいです。									○		○
83	僕は、中学校三年間の国語の授業で、いろいろな「言葉」に出会うことができ、語彙力が増えたと思う。特に印象に残っているのは「故事成語」だ。ある実話をもとに作られた故事成語は、自分にとって興味深く、新たな言葉との出会いだった。他にも漢字や四字熟語などいろんな言葉を学べた。中学校で学んだ言葉を高校でも生かしていきたい。											○
84	この三年間で多くの文学小説を読み深く考えてきました。その中で、自分の意見を持ち、作者の思いを予想したり、また、異なる意見を持った人と話すことで、物事を多くの視点でとらえられるようになりました。以前の私よりも物を客観的にとらえ、正解は一つではないと思えるようになり、それを考えるのが楽しくなりました。									○		○
85	ぼくは中学校三年間、国語の授業のおかげで作文が前よりも書きやすくなりました。色々な言葉を知ることができたので、前よりも書きやすく、きれいに物事を文章でまとめられるようになりました。／しかし、文は書いても使う漢字が分からないことが多いのでそこをがんばりたいです。									○		
86	僕は三年間の国語の学習で「物事を多方面から見る」ということを学んだ。主観は誰で描かれているが、じゃあこの人から見たこの物語はどういうものなのだろう、という見方を様々な物語ですること、物語を別視点で読み取る楽しさ、そして物事を様々な視点で見ることの重要性を学ぶことができた。これを今後の人生に生かせるようにしたい。									○		○

87	三年間の国語の学習で、私は「細かい点にまで着目する力」が身に付きました。／例えば、「握手」では、なぜプレーンオムレツを食べたのかに着目し、「走れメロス」では、老爺の言葉に着目しました。また、細かい描写に着目すると一つの物語をより面白く楽しめるということも学ぶことができました。今後の国語にも生かしていきます。								○													
88	僕は三年間の国語の授業で様々な知識を身につけたり、国語の大切さを学びました。特に物語の単元のときの授業では、相手の心情を理解する能力、相手を思いやる力を身につけることができました。自分で感じ取ったことを友達と共有し、多様な価値観に触れることができました。三年間で学んだことを高校生活にいかしていきたいと思います。																				○	
89	ぼくは国語で学んだこととして特にメディアリテラリーについて深く学びました。／たった一つのニュースでもそれは切り取られているもので調べたら思っていたこととは違うなど様々な視点から物事を見なければならぬことを学びました。この学習を普通の生活に取り入れてよりよい人生にしていけるようにがんばりたいと思います。																					○
90	ぼくは「書くことのレッスン」を通して様々なことを学び、身に付けました。／まず一、二年生では、天声人語を二百字帳に書き写すことで、文章の構成や難しい漢字の意味を学びました。そして、三年生ではテーマにそって、短い文を書くことで、文章の作り方、思いの伝え方を身に付けました。／このことを、いろいろな場所で活かしたいです。																					○
91	私が国語の授業で学んだことは、多様な考え方です。多くの文章とふれるなかで筆者の考え方に共感したり、批判的に考えたりすることが自分の考え方を広げてくれました。また、国語でつちかわれる読解力は他の教科の文章読解にもつながっていました。私は国語が苦手だったことをきっかけにより多く、国語にふれていたもので、強く実感しました。																					○
92	僕が三年間の国語の授業で学んだことは文章を自分で上手に作る能力です。授業で読んだ物語の感想を二百字で書くことをすることで、二百字の中で自分が思ったことをたくさんかけるようになりました。それを友達と交換して感想をいうことでコミュニケーション能力も身に付けることができました。																					○
93	私が学んだことは大きく二つあります。一つ目は国語の基礎的な知識です。文法や漢字、筆者の意図を正しく理解するための文章の読み方などです。／二つ目は、故人（筆者注：「古人」のことか？）の意志や考え方などです。現代でも通じる考え方はとても役に立ち、参考になります。学んだことをこれからもっと活かそうと、考えさせられます。																					○
94	僕が三年間の国語で学んだことは「日本語の美しさ」である。確かに、日本語は日本でしか通じないし、世界でも特に難しい言語の一つにもなっている。しかし、学びを深めていくにつれ、日本語の美しさに気づけたのだ。例えば、「やまとうたは、人の心を種とするよるの言の葉とぞなれにける。」という文は日本語でしか表せない美しい文だと思った。																					○
95	私が国語の授業で身に付けたことは理解力である。説明的な文章を読んで様々な人の意見があり、様々な考え方があることを知った。私はその経験を通して、意見の違いを理解することができ、自分ほどの人の意見に近いのかを探ることができた。このことは、理解力がなくてできないものである。筆者の伝えたいことをより深く理解する力がついたと思う。																					○
96	私は三年間の国語の授業で自分の考えを書く力を身に付けることができた。書くレッスンの積み重ねのおかげだと思う。小学校のときまでは、文章を読んで筆者の意見を知るだけだった。しかし、そこから広い視野をもち、自分の考えを自分の言葉で書いた。これからも役に立つだろう力を身につけて、とても内容の濃い授業にできてよかった。																					○
97	私がこの三年間の国語の授業で学んだことは、文学作品の読み取り方です。これまで教科書などに使われている物語を読んできましたが、その登場人物が何を考えているのか、出てくる言葉にどんな思いがあるのか、その物語の時代や背景が物語の内容とどう関係しているのかなどを考えながら読むことができるようになりました。																					○
98	私が三年間の国語の授業で学んだことは、物事には色々な見方や考え方があってということだ。説明文を読んでいるときに、自分と異なる考えをもつ筆者がほとんどであり、多くの発見があった。人の意見に耳を傾けることの大切さを三年間でさらに知ることができたので、今後の学校生活や社会生活にも生かしていきたい。																					○
99	私は中学校三年間で、自分の意見と他人の意見を比較して考えることを身につけました。他人の意見を見聞きすることで、自分とは異なる視点やその考え方を知ることができます。それは、自分の考え方を更に深めるきっかけになり、相手を尊敬することにもなりました。国語では授業からこうした発展的な部分が学べたと思います。																					○
100	私が中学校三年間の国語の授業で学んだことは、話し合いの大切さです。／国語には数学や理科などの教科と違い答えがありません。そのため、自分の考えとは違った考えを友達も持っていました。自分が思いつかないことを友達も持っていました。物事を多面的に見るためにも、話し合いはとても大切であると学びました。																					○
101	私が国語の授業でとくに身に付けたことといえば、読解力だと思う。私は、物語文での感情の読み取りが苦手だった。どうして登場人物がそう思うのかが分からなかったときもある。だが、中学校三年間で国語の授業を受けるうちに、まだ物語文が得意とは言えないが、読解力を向上させることができたのではないと思う。																					○
102	私は三年間の国語の授業のなかで、文章を批判的に読みとる力を身につけました。書かれた文章を鵜呑みにして全て信じるのではなく、自分の考えと違うところを見比べながら読んでいくことでより文章を深く理解できるようになりました。また、そこから友達と活発に意見を交換することができるようになりました。																					○
103	私がこの中学校三年間の国語の授業で特に学べて良かったと感じるのは、古文や漢文です。小学校のときから興味があり読んでいたものの現代語訳のみしか見ていませんでした。中学校で文法や時代の背景を学ぶことで、新たな発見があり、さらに深く昔や文化などを知ることができました。これからは元の文から読めるようにしていきたいです。																					○
104	私は、国語の授業を通して、広い視野で物事を見るということを学んだ。視野を広げただけでそれまで解くのに時間がかかった長文の問題は、以前よりもスラスラと解くことができるようになった。このことは、私たちの生活とも関係すると思う。国語で学んだことを生かしたいと思う。																					○

105	私が、中学校三年間の国語の授業で身につけたことは、相手に伝わるような文章を書くことです。以前は、思いつきで書いたり主語がなかったりしていたため読みにくく伝わりませんでした。三年間の国語の授業では、文法や文章の構成などを丁寧に教えていただいたので、相手に伝わる文章を書けるようになりました。		○						
106	私はこの三年間で文章を書く能力を身につけた。週に一度の「書くことのレッスン」はいつもの授業と違う雰囲気が好きだった。相手に自分の意見を伝えやすくするために、タイトルを工夫するなど様々なことを学んだ。そのおかげで作文も何回か賞をもらった。この三年間で身につけた文章を書く能力は、この先も必ず役に立つと信じている。		○						
107	私は国語の授業で「文章に命をふきこむ方法」を学んだ。例えば「走れメロス」では、メロスの情熱や人柄などを赤いマントや夕焼けで表していた。文章に色をつけ、人を感動させられる。私はこの三年間で、文章を書くのが好きになった。また、たくさんの人の考え方や思いに触れることで、人生を豊かにするすべを学べたと思う。		○	○					
108	私が中学校三年間で一番身についたと思うことは古文の読解能力です。小学校のときは古文なんて解いたこともなく、中一の始めは見ただけで目が回りそうでした。しかし、サクセスコーチで演習を繰り返すうちに楽しくなり、模試で満点をとるまでに成長できました。また、古文の話の内容から学ぶことも多かったです。					○			
109	私が中学校三年間の国語の授業で身に付けたことは、言語事項や古典の解き方だ。／一年の頃は品詞を覚えることに必死だったり、問題の古典のところは解説をすぐ見ていたりしたが、今では品詞だけでなく活用形などもよく分かり、古典の問題がでたら嬉しくなり、内容を読むのが楽しみのようになった。中学で身に付けたことを高校でも生かしたい。					○	○		
110	中学校三年間の国語の授業を通して、物語や説明文、古典、短歌・俳句、漢字、文法などを学習してきた。特に古典は私に昔の人々の文化や生活している状況、そして現代を生きる人々との価値観の違いを学ぶことができ、とても印象深かった。他にも文法を通して文の作り方や敬語を学び、より正しく日本語を使えるようになったと思う。					○	○		
111	私は、国語のいろいろなテーマで文章をつくっていく授業で文章力をつけたり、言葉の範囲を広げたりすることができました。今までは、どう表現したらいいのか分からなかったことも、いろいろな言葉を組み合わせたり、様々な視点から物事を考えたりと表現力を身につけることができました。		○						
112	私が中学校三年間を通し、国語の授業で学んだことは、たくさんありますが、その中でも一番大切だと感じたことは物事を客観的に見るということです。一つの視点からでは、勘違い、思い違い、すれ違いが生まれてしまう可能性があります。多様な考え方、視点を持つことで私の世界は更に広がりました。								○
113	私は中学校三年間の中でたくさんのことを学びました。その中で一番身についたと感じるのは読解力です。今までは、物語などの比較的理解のしやすい文章を読むのが楽しかったのですが、この三年間でいろいろな説明文などの文章を読んで、筆者の思いのつかみ方などを学ぶと、難しい文も読んでみようという気になることができるようになりました。					○			
114	私がこの三年間で学んだことのなかで一番印象に残っているのは「故郷」の授業だ。初めは、文章が難しく何を伝えたいのかわからなかった。しかし、授業で人物相関図をかいたり、当時の状況を考えていくなかで、鲁迅が読み手になにを伝えなかったのかわかった。様々な視点から整理することで理解できるのだということを知ることができた。					○			
115	私は、三年間国語を学んだことで、物事を様々な観点から見ることができるようになった。／小学生の頃は、どんな文章を読んでも主観的に考えることが多かった。しかし今は、自分の考え方や筆者の考えだけでなく、第三者視点からも物事を捉えることを身に付け、日常生活での応用ができるようになった。								○
116	私は、中学校三年間の国語の授業を通して、物ごとを捉えるときは、主観にとらわれず、第三者の視点に立つことが大切だということを知りました。／これから物ごとを捉えて自分の考えを発表する機会が、増えてくると思います。様々な視点から捉えることを意識して、自分の考えを述べるようにしたいです。								○
117	私は中学校三年間の国語の授業で、自分の意見を相手に分かりやすく伝えることを身につけました。／中一の頃は人に何かを伝えることが苦手だったのですが、書くことのレッスンで分かりやすく人に伝える方法を学んだことで、自分の思いを前よりも簡単に伝えられるようになりました。		○						
○の合計数			1	29	60	14	13	7	24

3 考察

(1) 「読むこと」を中心に読解力を身につける—もしくは文学偏重か？

学んだこと・身に付けたこととして、「読むこと」を中心に記述した生徒がおおよそ半数に上った。「読むこと」の重視からの脱却が図られつつある現在でも、最も多くの授業時数を充てるのは「読むこと」であるし、高等学校・大学等の入学試験における国語科の出題も「読むこと」中心であることには依然として変わりがない。よって、この結果はおおむね妥当なところではないかと考える。

一方で、「話すこと・聞くこと」に関する記述は、「話し合い」に関する記述が他領域と関連させながら若干見られる程度である。あるいは「読むこと」について述べた生徒の多くが文学的な文章について記述していることを踏まえると、やや文学的な文章の読解に重きを置きすぎているとの見方もできるであろう。筆者は長年、文学教育の研究・実践に力を注いできた。その積み重ねは大事にしつつ、今後は各領域等、よりバ

ランスのとれた授業実践に取り組んでいくべきなのかもしれない。

(2) 「深い学び」につなげる「読むこと」の指導—詳細な読解は非か？

現行学習指導要領においては、生徒の「深い学び」を求めている。一方で、文学的な文章における詳細な読解に陥りがちであった指導の在り方に見直しが求められるようになってからも久しい。筆者も含め多くの国語教師が、言語活動を工夫しながら生徒の「深い学び」につなげようと必死であるが、果して功を奏しているのか。言語活動・学習活動の工夫も必要ではあるが、文章そのものもつ力をもっと信じるべきではないか。

「細かい描写に着目すると一つの物語をより面白く楽しめるということも学ぶことができました」(No.87)、「思考力と表現力を身に付けた。小学生のときとは違う、一つの文章を深く読み込む授業のおかげだと思う」(No.68)、「授業の中でより深い部分まで触れるようになって、考えの幅が広がり、ものの見方やとらえ方が変化したように感じる」(No.32)。これも様々なところでくり返し述べられているが、「指導の在り方」には見直しの必要があっても、生徒の詳細な読解そのものは否定されるべきものではない。生徒の気付きや疑問を大事に拾い上げながら、自らの学びとして詳細な読解に導いていくことは十分に可能である。

(3) 多面的・多角的なものの見方を身に付ける—実用的な力とは何か？

少なくない生徒が、領域等を超えた大局的な視点から振り返りをおこなっていた。その多くは、ものの見方や考え方に関する記述であった。

「人間の多様性について学びを深めることができた」(No.26)、「身に付いた考え方が一つある。それは、ものごとを観るときに、別の視点からみるということだ」(No.56)、「三年間の国語の学習で『物事を多方面から見る』ということを学んだ」(No.86)、「私が国語の授業で学んだことは、多様な考え方です」(No.91)、「文章を批判的に読みとる力を身につけました」(No.102)等、これまでになかった視点を身に付けたという記述が多く見られた。「読むこと」「書くこと」の学習は、単に文章を読む力や書く力を身に付けるだけでなく、自身のものの見方や考え方を鍛える上でも有効である。

昨今の国語教育においては、日常生活・社会生活に生きる力を育むという視点から、例えば取り扱い説明書や役所が出した案内文書などの「実用的な文書」を読ませる活動や試験が見られる。その活動を否定するわけではないし、確かにそういう学習も必要ではあると思う。しかし、国語の授業において身に付けさせる日常生活・社会生活に生きる力とは、果たしてそのような力にとどまるべきなのだろうか。

「例えば何か問題があった時。三年前までなら、一つの自分の考えが全てだと考えていた。しかし、今なら一度客観的に、否定的に見るなど、様々な視点を使うことができる。授業を通し、様々な話や意見を知ったことで私の中に多くの視点を身につけられたのだ」(No.67)、「一番大切だと感じたことは物事を客観的に見るということです。一つの視点からでは、勘違い、思い違い、すれ違いが生まれてしまう可能性があります。多様な考え方、視点を持つことで私の世界は更に広がりました」(No.112)、「自分の考え方を更に深めるきっかけになり、相手を尊敬することにもなりました」(No.99)というように、多面的・多角的な視点や客観的な視点、批判的な視点などを身に付けた者は、より強く、より優しく社会の中で生きることができるとは思わないかと考える。そういった視点を身に付けさせることができるのも、国語の授業なのではないだろうか。

(4) 生徒相互の力が学びを深める—キーワードは共有・交流

その多面的・多角的なものの見方や考え方、あるいは多様な視点は、生徒同士で考えを共有したり交流したりする活動をとおして身に付けることができたと考えている生徒が多いようである。

「友達との意見交換などの授業を通して人間の感情の多様さを学んだ」(No.10)、「自分で感じ取ったことを友達と共有し、多様な価値観に触れることができました」(No.88)、「回数を重ねていくうちに、相手の意見を受け止めた上で、自分の意見を更に深めて伝えることができるようになっていきました」(No.24)、「他の人の考えや意見に対してさらに自分で考えようとする姿勢です」(No.60)、「自分の意見を持ち、作者の

思いを予想することや、異なる意見を持った人と話すことで、物事を多くの視点でとらえられることができるようになりました。以前の私よりも物を客観的にとらえ、正解は一つではないと思えるようになり、それを考えるのが楽しくなりました」(No.84)。

現行の学習指導要領でも重要視されているが、共有や交流といった活動がもつ力は大きいようである。生徒たちが、お互いの意見や考えを尊重し合いながら、自分の考えをさらに広げたり深めたりしようとする姿が見られる。教師の一方的な講義だけではなかなか難しいことである。

(5) 継続的な指導で書く力を身に付けさせるー必要なのは「慣れ」と「自信」

前述したように、筆者は「読むこと」の指導、なかでも文学の指導に力を入れてきた経緯がある。ところがある頃から、読む力を高めるためには書く力の高まりが必要不可欠だとの思いを強く抱くようになった。考えてみれば至極当然のことではあるのだが、思考力と表現力は強く結びついており、どちらかが単独で高まることはないのである。生徒にも「書くことは考えることであり、考えることは書くことである」と伝えてきた。

この学年にも、入学時よりノートとは別に『二百字帳』をもたせ、それを原稿用紙代わりにして機会があることに短作文を書かせてきた。また、各種作文の下書きなどにも『二百字帳』を活用してきた。中学生になると「書くこと」に苦手意識をもつようになる生徒も少なくないが、それを解消し、かつ書く力を高めるためには、一つは書き慣れることが必要だと考えたからである。また、自分の書いた文章を手元に残し、『二百字帳』という目に見える形で積み重ねることは、書くことに対する自信にもつながると考えた。

中学校3年時には、週1時間を「書くことのレッスン」として特設単元を設定し、少人数指導を行った〔詳細は、渡辺・山下「中学校国語科における思考力・判断力・表現力の育成ー特設単元「書くことのレッスン」の実践をとおしてー」(『玉龍紀要 第38号』R3.3)〕。次のような生徒の振り返りを見ると、これらの取組がある程度功を奏したのではないかと考える。

「二百字帳を使って様々なテーマで文章を書く授業を通して、自分が伝えたいことを分かりやすくまとめる力が身に付いた」(No.75)、「三年間の国語の授業で文章を書くときの効果的な書き方や文法を学んだり、何度も書く練習を繰り返したりして、自分の思いや意見を自分の思うように書いて伝えることができるようになりました」(No.72)、「書くことのレッスンを含め、多くの文章を書いたことで、様々な表現の工夫、言葉の使い方ができるようになった」(No.42)、「書くことのレッスンで、想像力や表現力が身についた」(No.61)、「私は、『書くことのレッスン』の授業を受け、一年生のときよりも自分の考えを表すことや、文章をかくことが上達したとを感じる」(No.4)。

(6) 古典指導や漢字・語彙指導のもつ可能性ー暗記にとどまらない指導

「古典は私に昔の人々の文化や生活している状況、そして現代を生きる人々との価値観の違いを学ぶことができ、とても印象深かった」(No.110)、「新しいものばかりにとらわれず、古いものにも目を向けることで得られるものがあることを学びました」(No.7)、「学びを深めていくにつれ、日本語の美しさに気づけたのだ。例えば、『やまとうたは、人の心を種としてよろずの言の葉とぞなれにける。』という文は日本語でしか表せない美しい文だと思った」(No.93)。

中学校の国語科の授業で扱う古文・漢文はわずかである。しかしながらこのような生徒の記述を見ると、古典の学びが生徒の価値観形成や言語感覚の育成に寄与する可能性の大きさを感じる。中学校において訓詁注釈に終始するような古典の学習はもはやあり得ないが、多種多様な古典作品に触れたり、学びをより深めたりできる言語活動の工夫にいつそう取り組んでいくべきであろう。

授業においては、毎時間漢字小テストと語意の確認等に取り組んできた。「毎日の漢字テストや読書の時間に分からない単語があれば、すぐに調べました」(No.46)といった記述はあるものの、全体として漢字・語句等に関する記述が少ないのは、それがあまりにも当たり前のことで、学びの前提になるものとして生徒に認識されている故であろうか。そうであればよいのであるが、全国の中高一貫校に共通する課題として基

考える 美しい 速い 楽しい
大切 理解 分かりやすい 新しい 書きやすい
伝わりやすい レッスン 意見 つける
漢字 心情 相手 読む できる 細かい
広い 付ける 書く 多く 視点 読み取る 読みとる かわしい
難しい 伝える 文法 学ぶ 国語 物語 興味深い
しやすい 思う 文章 中学校 年間 登場人物
深める 考え方 身 使う 筆者 深い
感じる まとめる 授業 読解力 僕 考え 高校 おもしろい
面白い 言葉 表現 生かす 物事 様々 いく つく
多い 知る 正しい 分かる 本 一つ 違う 良い